

人文学部長挨拶

札幌学院大学人文学部長
奥谷 浩 一

ご来場の皆様、おはようございます。昨日から荒れ模様の天気で風が大変冷たいなか、わざわざ本学にお越しいただき、まことにありがとうございます。私、人文学部長の奥谷と申します。一言皆様にご挨拶を申し上げます。

すでにご案内のように、私ども札幌学院大学人文学部の開設が1977年4月でしたので、昨年創立30周年を迎えたわけです。本学の最も古い前身は、1946年に創



設された、北海道で最初の文科系私学でありました札幌文科専門学院です。したがって、今年で学園創立62年、これを発展改組した札幌短期大学から数えると58年、4年制の大学に移行した札幌商科大学の時代から数えるとちょうど40周年となります。本学人文学部が発足した時は、札幌商科大学のなかの二つ目の学部として人間科学科学生定員100名と英語英米文学科同50名の二学科で出発いたしました。その後、臨時定員増を行ってこれを一部恒常化して学生定員50名に増やし、2000年には大学院臨床心理学研究科を設置いたしました。2001年には既存の二学科に加えて臨床心理学科学生定員90名、さらには2006年に子ども発達学科学科学生定員50名を増設いたしました。その結果、現在の人文学部は4学科で学生定員340名という本学最大の学部となり、入試情勢が大変厳しい折、本学で最も学生をたくさん集める学部を発展しています。

私は、人文学部開設の半年前に本学に着任しましたので、いまや一番の古株となりました。人文学部を作ってよかったと思うことは、北海道最初の人文学部として、それなりに有為で個性的な人材を世に送り出してきたということです。例えば、人文学部は創立以来すでに6,326名の卒業生を送り出し、そのうち小学校・中学校・高校の教員として採用された者が141名、社会福祉士国家試験受験資格取得者が232名、本学大学院臨床心理学研究科を修了して臨床心理士の資格を取得した者が81名という実績をあげています。そして、私の知る限りでは、大学・短大の教員になった卒業生が少なくとも3人います。30年を振り返りますと、これらの卒業生のなかには、個性的な人材も結構おりまして、例えば、人間科学科の私のゼミを卒業して現在東京大学の学際情報学府の大学院博士課程に在学している池田知樹君、同じく人間科学科の杉山ゼミを卒業して司法試験に合格した南淵聡君、臨床心理学では今北星大学准教授になってい

る田澤安弘君がいます。それにトリノ冬季オリンピックのカーリングで活躍した小野寺あゆみ選手は英語英米文学科の卒業生です。これらの卒業生は私が知っているごく一部にすぎませんが、本学部はこのような多くの個性的な卒業生を送り出していることを多くの方々に知っていただきたいと思います。

私ども人文学部は、三つの教育理念にもとづいて教育を展開しております。そのひとつは、人間を尊重し他人にたいする思いやりの気持ちをもった学生を育成することです。障がいをもつ学生を積極的に受け入れていることも本学のひとつの大きな特徴です。学生諸君のグループのなかにも障がいをもつ学生との間のバリアーをなくそうというバリアフリー委員会が積極的に活動していて、その実績は全国的に評価されています。また、少人数教育を基本とし、一人ひとりの学生を丁寧な教育するという力を入れていることのひとつです。本学では今春から学生のために学習支援室を設けて、一年生を中心に学習をサポートする体制をスタートさせました。そして最後に、地域社会のために大学の知的・教育的資源を活用し、地域社会に積極的に貢献することです。本学でも各種の講演会や公開講座を開催しているほか、札幌市の大通りにあります社会連携センターでも生涯学習の講座を中心に活動を進めており、9年間で延べ人数でこれまで1万2千名の受講生を数えています。この生涯学習活動の中心となっているのはやはり人文学部の諸先生です。私ども人文学部は、30年間のこれまでの実績のうえに立ち、これからもさらに内実ある教育研究、そして社会貢献の活動を展開していきたいと念じています。私ども人文学部にたいする皆様のご支援をこれからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、一年遅れとなりましたが、人文学部創立30周年を記念する事業として、午前中は記念講演会、午後からはシンポジウムを開催させていただきます。講演演者やパネラーの方も現在日本の第一線で活躍されておられる著名な方々をお呼びいたしました。本日の記念講演とシンポジウムから私自身も多くのことを学び取りたいし、今日ご来場の皆様方にも学び取っていただきたいと念じています。どうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして私の挨拶に代えさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。